

妙宣寺

この 13 世紀の仏教寺院は、かつて流刑地であった佐渡の歴史を体現している。日本の軍事的支配者である将軍は、しばしば政治的ライバルや反対者を佐渡や他の島に追放することで対処した。

妙宣寺は日蓮宗の寺院で、宗祖の日蓮（1222-1282）は幕府を批判したため、1271 年から 1274 年まで佐渡に追放された。妙宣寺の初代住職、阿佛房日得上人（アブツボウ・ニツク）（1279 没）は、この時期に日蓮に帰依し、妻の千日尼（センニチニ）も日蓮に帰依した。妙宣寺の所蔵品の中には、1274 年に彫られた最古の木造日蓮像や、日蓮が日得に宛てた手紙の原本などがある。

日得は、晩年の 20 年間、この島に流されていた順徳天皇（1197-1242）を護送中にこの島に到着した。1221 年、順徳天皇は、鎌倉幕府（1185-1333）を倒して天皇の直接統治を復活させる企てに関与していた。天皇は懲罰として強制的に佐渡に送られた。日得は武士としてこの島にやってきたが、後に世を捨て僧侶となった。

その 100 年後、後醍醐天皇（1288-1339）による反乱が起こり、佐渡に新たな流人が押し寄せた。後醍醐の支持者の一人、朝臣の日野資朝（ヒノ・スケトモ）（1290-1332）は、後醍醐への忠誠のために処刑されるまで、合計 7 年間に佐渡で過ごした。彼の墓は寺にある。

妙宣寺の五重塔は新潟県で唯一のものである。この五重塔は、二代にわたる棟梁のもと、30 年の歳月をかけて建てられ、1825 年に完成した。寺の言い伝えによると、五重塔だが、住職は住職の日泰（1764-1831）に三階建てしか許可を得ていなかった。その上、日泰は後に日蓮宗の教えにそぐわない祈祷を行ったとして告発された。この違反により、彼は妙宣寺を追われ、島の別の場所にあるもっと小さな末寺に送られ、佐渡の多くの流浪人の一人となった。